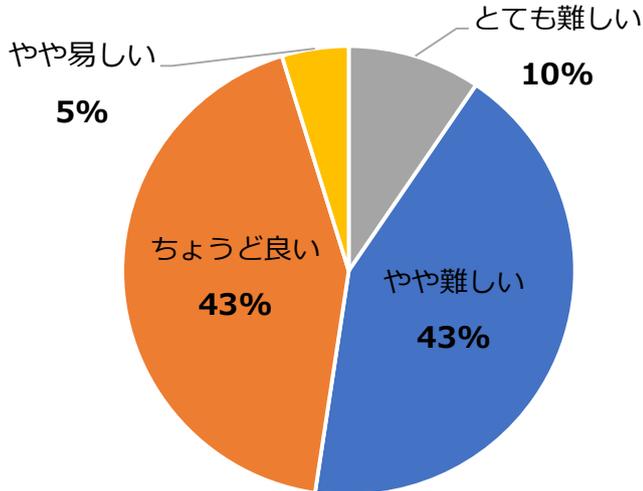


## CLiP Extension 臨床研究ワークショップアンケート

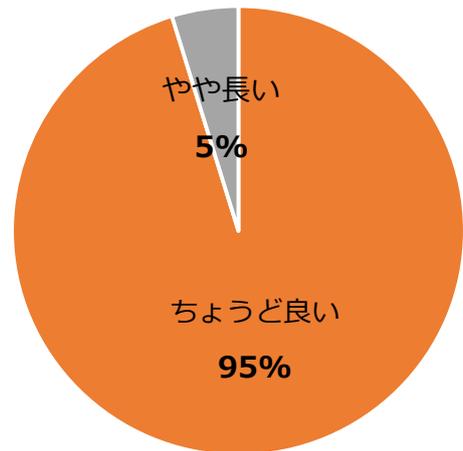
2024年2月18日 日本橋ライフサイエンスビルディング開催

### ■セッション 1:GW 診断研究のデザイン

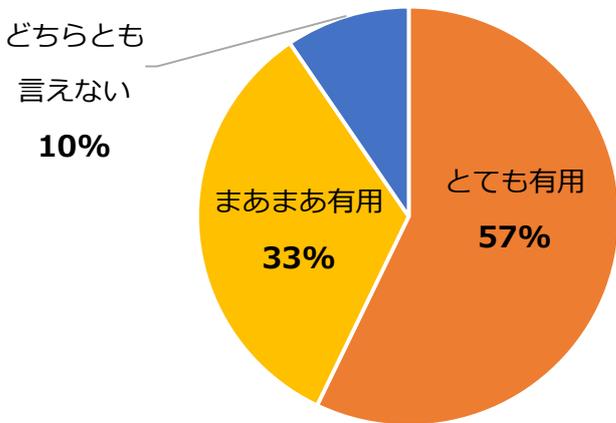
難易度はいかがでしたか？



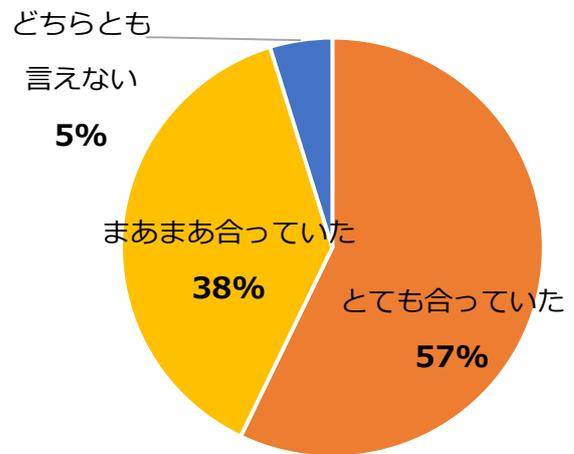
実習時間はいかがでしたか？



今後の研究活動に有用な内容でしたか？

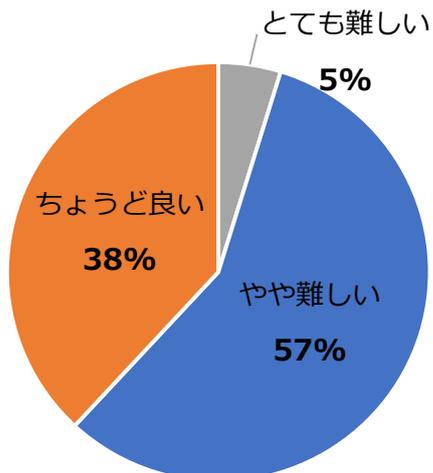


ニーズに合っていましたか？

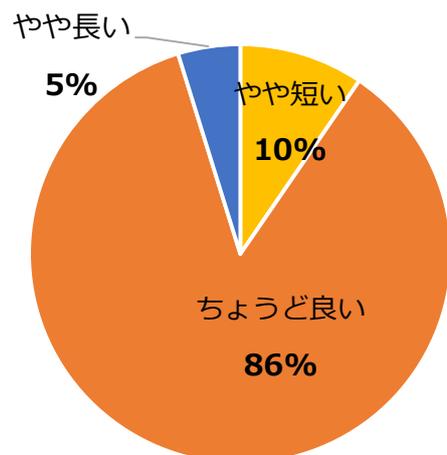


### ■セッション 2: 診断制度の分析と解釈 (ハンズオン)

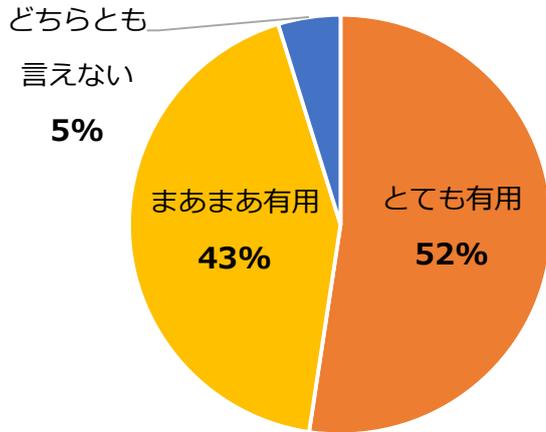
難易度はいかがでしたか？



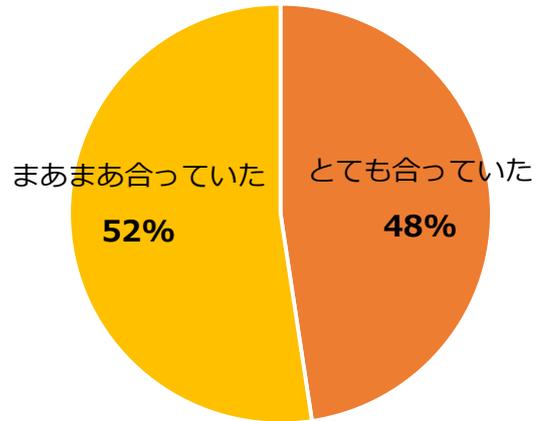
実習時間はいかがでしたか？



今後の研究活動に有用な内容でしたか？

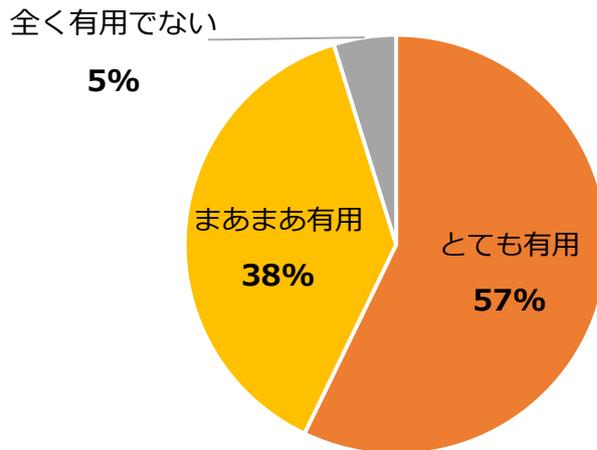


ニーズに合っていましたか？



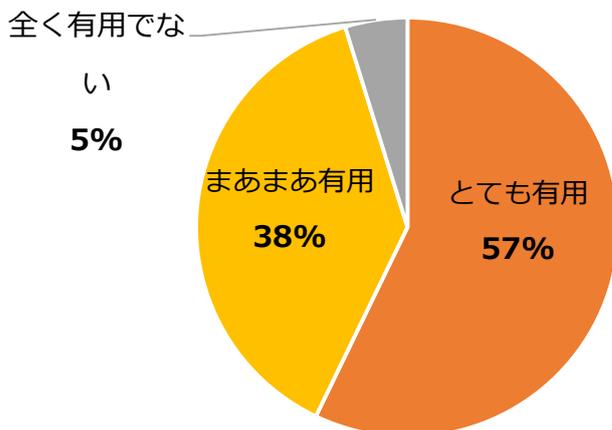
■特別セッション：（臨床研究の学習機会について）について

今後の研究活動に有用な内容でしたか？

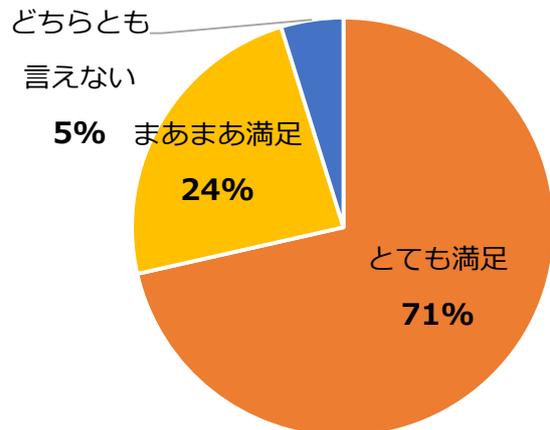


■ワークショップ全体について

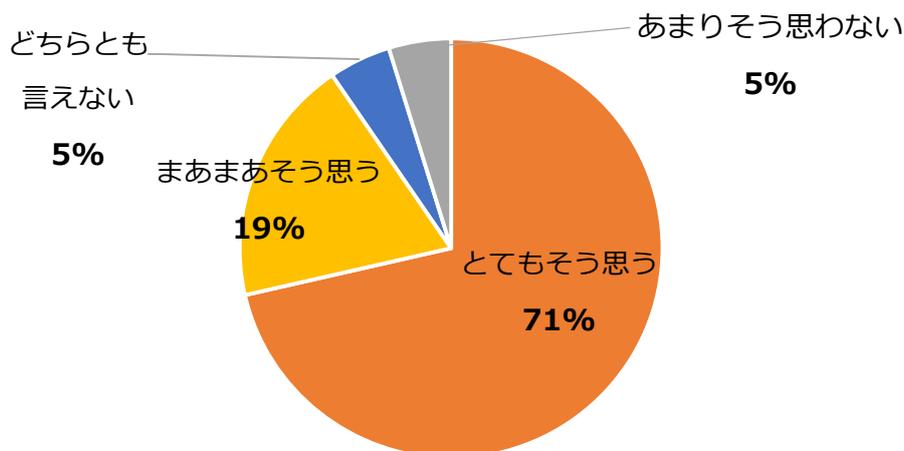
今後の研究活動に有用な内容でしたか？



満足度はいかがでしたか？



お知り合いにも勧めたい内容でしたか？



■ご意見やご感想など自由にご記載ください。

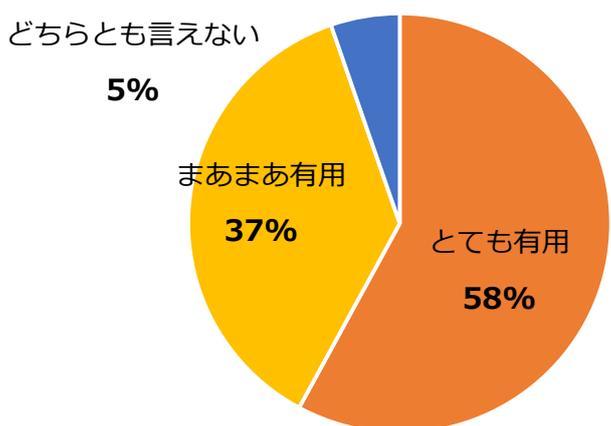
- ・非常に有用な時間でした。現場で実践可能を目指した素晴らしいWS だと思いました。
- ・普段、臨床研究にかかわる概念などについて（用語を口にする程度の）機会さえもない環境にあるため、遠隔学習をこなしているだけの初学者として参加していました。そのため、ワークショップのなかで発言することが、ちょっと憚られてしまいました。ですが、最初に「診断研究において、どのような臨床的セッティングでこそその研究が有用性を持ちうるか」ということを強調していただいたので、特に午前中のワークは、実臨床の場面を想定しながら望むことができました。
- ・すぐに研究に活かせる充実した内容で非常に助かります。ありがとうございました。
- ・具体的な code もあり大変ありがたいです。自分のデータでやるときにとっても参考になります。
- ・実際に手を動かして解析できたことで理解が深まりました。

■特別講演に関するアンケート

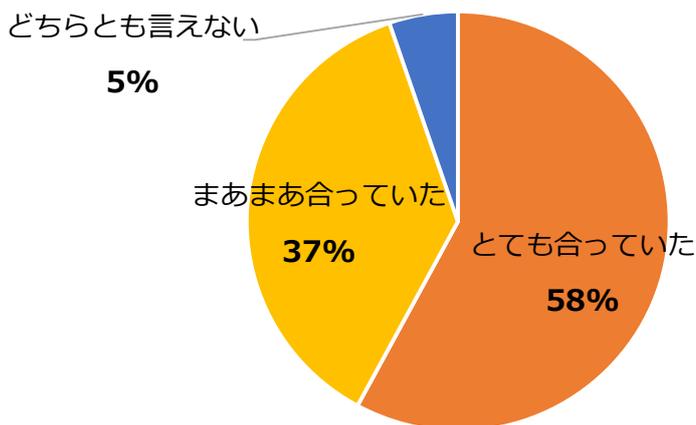
これからの診断研究 -感度・特異度の一步先へ-

白河総合診療アカデミー 准教授 高田 俊彦先生

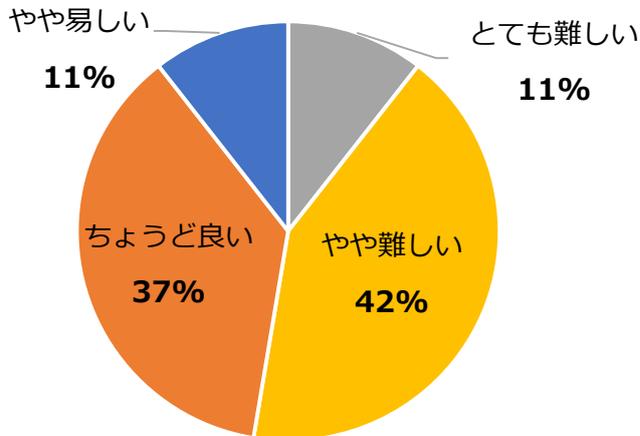
今後の研究活動に有用な内容でしたか？



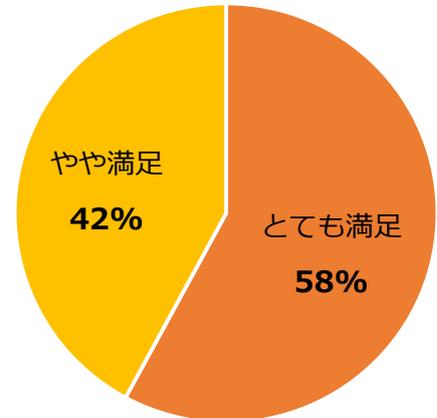
ニーズに合っていましたか？



難易度はいかがでしたか？



満足度はいかがでしたか？



■ご質問、ご感想など自由にご記載ください。

・講義でも触れておられたように、私も「感度・特異度は所見や検査に固有の値」と学生時代に習い、現在の卒後 9-10 年目までそのように思い込んでいましたが、ご紹介いただいた腸腰筋膿瘍の症例で、診療の時間経過や重症度により変化するという感覚は、きちんと持っておかなければ、と目から鱗が落ちた思いです。

・診断予測研究の第一線でご活躍されている高田先生の講義を拝聴でき感動しました。特に腸腰筋膿瘍の話は印象に残っており、臨床医として患者に真摯に向き合い、しっかりと観察することが真に意味のある RQ につながるということをご教示いただきました。ありがとうございました。

・この分野での第一人者の話を聞いて、とても勉強になった。意外とまだ新しい分野なのだなあと思った。研究成果を実臨床で実感するには少し遠そうだが、勉強を続けようと思った。